

ARIBの動き

国際普及の活動状況

当会の普及戦略委員会では国際競争力強化のために、ワイヤレス国際普及部会及びデジタル放送国際普及部会のそれぞれについて国際普及活動を進めています。

各普及部会の最近の活動状況を説明します。

1 ワイヤレス国際普及部会の活動状況

(1) 2008年3月20日にベトナムにて“Wireless Broadband and 3G Mobile

Seminar”を開催しました。ベトナムにおける通信関連の主管庁・事業者・企業に対し、3G及び各種ブロードバンドワイヤレス方式 (WiMAX, 次世代PHS, iBurst) を導入する上で参考になる、日本のワイヤレス技術や製品を紹介致しました。また、3G導入に合わせて始まったMusicダウンロード等のサービスやFeliCaを利用したRFIDソリューションの紹介など、技術的観点からだけでなく新規事業の創出といったビジネス的な観点からも日本の事例紹介を行ないました。参加者数は全体で150名近い人数となり又プレスも10社強集まる等、ベトナムの3G及びブロードバンドサービスへの興味と期待の高さが窺えました。

また、セミナー会場に展示ルームを併設し日本側から5社が展示を行い、ブロードバンド関連ビジネス、製品、RFIDソリューション等を紹介し、セミナー参加者への訴求を図りました。



セミナー会場



セミナー参加者

(2) 2008年3月31日に第3回ワイヤレス国際普及部会を開催致しました。2007年度の部会の活動状況およびベトナムモバイルセミナー（上記参照）の実施報告を行うとともに、主議題である2008年度ワイヤレス国際普及部会の進

め方について事務局より説明いたしました。普及活動作業班に4つのタスクフォース（WiMAX、次世代PHS、ITS、ワイヤレスアプリケーション）を作るなどの内容を審議し、2008年度の活動の進め方が決定されました。

2 デジタル放送国際普及部会の活動状況

デジタル放送国際普及部会の活動は部会の下に設けられているデジタル放送普及活動作業班（DiBEG）が主体となって活動しています。

現在の活動内容としては、南米のチリ、ペルー、コロンビア等において作業班の専門家チームによりISDB-T方式地上デジタル放送のセミナーやデモを実施するとともに、東南アジアのフィリピンにおいても、同様にセミナーやデモに加えて同方式を採用してもらうことを想定し、チャンネルプランの技術支援の活動を行っています。

これらの活動については、4月11日に開催した第6回デジタル放送普及活動作業班の会合で各構成員並びに専門家から報告されました。

写真は3月12日に実施したコロンビアでのISDB-T方式デモの様子を表したものです。



固定受信デモコーナー



車載受信デモを熱心に見る参加者

電気通信・放送 行政の動き

「第3世代移動通信システム（IMT-2000）の高度化のための技術的方策」 に関する審議開始

（平成20年4月10日 総務省報道資料から）

本日、情報通信審議会情報通信技術分科会（分科会長：土居 範久 中央大学理工学部教授）において、「第3世代移動通信システム(IMT-2000)の高度化のための技術的方策」の審議が開始されることになりました。

1 審議開始の背景

我が国の携帯電話及びPHSは現在1億597万加入に達し（平成20年2月末現在）、このうち、第3世代移動通信システム(IMT-2000)については、普及率が84.5%となり、第2世代からの移行が着実に進行しています。

一方、社会・経済活動の高度化・多様化を背景に、インターネット接続や動画像伝送等、携帯電話を利用したデータ通信利用が拡大傾向にあり、より高速・大容量で利便性の高い移動通信システムの導入に期待が寄せられており

ます。これらの需要に対応するべく、国際的には、3.9世代移動通信システムの標準化作業が最終局面にあり、国内においても、2010年頃の商用化を目指した取組が活発化してきているところです。

このような背景を踏まえ、国内外の技術の動向及び周波数の一層の有効利用を考慮して、第3世代移動通信システム（IMT-2000）の高度化システムとなる3.9世代移動通信システムの導入に向け、必要な技術的条件等を検討するものです。

2 審議内容

「携帯電話等の周波数有効利用方策」のうち「第3世代移動通信システム（IMT-2000）の高度化のための技術的方策」

3 審議体制

情報通信技術分科会における審議に資するため、既存の携帯電話等周波数有効利用方策委員会（主査：服部 武 上智大学理工学部教授）において調査されます。

4 今後の予定

平成20年12月頃に答申を受け、その後、関係規定の整備を行う予定です。

本報道発表の詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080410_2.html>をご参照ください。

地域WiMAXに係る無線局免許の申請状況について (平成20年4月11日総務省報道資料から)

総務省は、広帯域移動無線アクセスシステムのうち、2.5GHz帯の周波数（固定系地域バンド）を使用する無線局（以下「地域WiMAXの無線局」という。）について、本年3月3日（月）から同年4月7日（月）までを公募期間として無線局免許の申請受付を行い、41者（全国62市町村）の申請を受け付けました。

1 公募期間における無線局免許の申請受付状況

公募期間（平成20年3月3日（月）から同年4月7日（月）まで）において、41者の申請（全国62市町村）を受け付けましたが、その概要は次のとおりです（都道府県ごとの申請状況は別紙のとおりです。）。

(1) 申請者の内訳

CATV事業者 40者

電気通信事業者 1者

(2) 申請における提供サービス等

1) ブロードバンド・ゼロ地域の解消

申請者数：5者 解消世帯数：約3000世帯

2) 計画されているサービス

防災・防犯サービス 35件

2 今後の予定

- (1) 公募期間に受理した申請は、時間的に前後なく受け付けたものとして審査します。
- (2) 比較審査を行う案件については、次の有識者から構成する「地域WiMAX評価委員会」より、審査内容の適正性について意見を聴くこととしております。

地域WiMAX評価委員会構成員（五十音順、敬称略）	
黒川 和美	法政大学大学院政策創造研究科教授
黒田 道子	東京工科大学コンピュータサイエンス学部教授
土居 範久	中央大学理工学部教授
中村 伊知哉	慶応大学大学院メディアデザイン研究科教授
濱田 純一	東京大学理事（副学長）
三友 仁志	早稲田大学大学院国際情報通信研究科教授
森川 博之	東京大学先端科学技術研究センター教授

- (3) 今後も地域WiMAXの無線局免許申請を随時受け付けますが、当該申請の審査については、受付順かつ公募期間に受け付けた申請の処理後に処理します。このことから、標準処理期間以上の処理期間を要する場合があります。

本報道発表の詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080411_4.html>をご参照ください。

編集後記

桜前線は通り過ぎて北上を続けていますが、今年の花見時期は寒暖の差が大きかったせいか、比較的長い期間に亘って楽しむことができました。桜の開花時期が終わりを告げると同時に、いよいよ春らしい日和となり、草花が一齐に花をつけはじめ、色鮮やかな季節になってきました。

特に、各地からチューリップのたよりや催し物の様子の状況が届いていますが、家の近くの公園でもチューリップまつりが行われました。

会場では、色とりどりのチューリップが



チューリップ畑の風景

咲き誇り、目を楽しませてくれています。

右の写真では色をお届けできませんが、赤、黄、ピンクの花をつけたチューリップ畑の様子を表しています。皆様もそれぞれの地域で、春本番の季節を満喫されていることと思います。

(国際普及P 広瀬)

[ページの先頭に戻る ▲](#)